

# 19日 日曜

## I サムエル

25:1 サムエルは死んだ。全イスラエルは集まって、彼のために悼み悲しみ、ラマにある彼の家に葬った。ダビデは立ってパランの荒野に下って行った。

25:2 マオンに一人の人がいた。カルメルで事業をしていて、非常に裕福で、羊三千匹、やぎ千匹を持っていました。彼はカルメルで羊の毛の刈り取りをしていた。

25:3 この人の名はナバルといい、妻の名はアビガイルといった。この女は賢明で姿が美しかったが、夫は頑迷で行状が悪かった。彼はカレブ人であった。

25:4 ダビデは、ナバルがその羊の毛を刈っていることを荒野で聞いた。

25:5 ダビデは十人の若者を遣わし、その若者たちに言った。「カルメルへ上って行ってナバルのところに着いたら、私の名で彼に安否を尋ね、

25:6 わが同胞に、こう言いなさい。『あなたに平安がありますように。あなたの家に平安がありますように。また、あなたのすべてのものに平安がありますように。』

25:7 今、羊の毛を刈る者たちが、あなたのところにいるのを聞きました。あなたの羊飼いたちは、私たちと一緒にいましたが、彼らに恥をかかせたことはありませんでした。彼らがカルメルにいる間中、何かが失われることもありませんでした。

25:8 あなたの若者たちに尋ねてみてください。彼らはそう報告するでしょう。ですから、私の若者たちに親切にしてやってください。祝いの日に来たのですから。どうか、しもべたちと、あなたの子ダビデに、何かあなたの手



聖書の記述

もとにある物を与えてください。』」

25:9 ダビデの若者たちは行って、言われたとおりのことをダビデの名によってナバルに告げ、答えを待った。

25:10 ナバルはダビデの家来たちに答えて言った。「ダビデとは何者だ。エッサイの子とは何者だ。このごろは、主人のところから脱走する家来が多くなっている。

25:11 私のパンと水、それに羊の毛を刈り取る者たちのために屠った肉を取って、どこから来たかも分からぬ者どもに、くれてやらなければならぬのか。」

25:12 ダビデの若者たちは、もと来た道を引き返し、戻って来て、これら一部始終をダビデに報告した。

25:13 ダビデは部下に「各自、自分の剣を帶びよ」と命じた。それで、みな剣を身に帯びた。ダビデも剣を帯びた。四百人ほどの者がダビデについて上って行き、二百人は荷物のところにとどまった。

ダビデのもとには困窮した者や不満を持った者たちが集まりました。通常そのような一群、特に兵士は略奪などで食いつなぐことが多いのですが、ダビデの群れは別でした。ダビデは神を信じているので、義を行い、また神に信頼していたからでしょう。むしろナバルの労働者たちを敵から守り、よくしてあげたのでした。

一方ナバルは多くの恩恵をダビデたちから受けたにも関わらず、ダビデが権力者でもなく自分の得にはならないと判断したのでしょう。彼はダビデを罵り、恩を仇で返しました。

ここでダビデの行動は、非常に人間的なもので、信仰的はありませんでした。ナバルを攻撃しようとしたのです。ダビデに理由があったでしょうが、神様はそれをよしとはなさいません。（後にダビ

デは思いとどります）

悪に対して悪で報いないことです。しかしダビデほどの人でもその誘惑があることを思いつつ、復讐心の強さを認めて警戒しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？